

EUSI メールマガジン Vol. 059

「マルチレベル・ガバナンスの夢を見る EU の現実」(白井陽一郎)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)

http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 043】

「マルチレベル・ガバナンスの夢を見る EU の現実」

白井陽一郎 (新潟国際情報大学国際学部教授)

英国のスコットランドやスペインのカタルーニャ——また同じくスペインのバスクやベルギーのフランドル、イタリアの北部など——に見られる、国家として独立しようとする動き(もしくは独立したいと願うその思い)を、EUの理想という視点から解釈してみると、どうなるだろうか。

独立を問うた2014年の二つ行動、スコットランドの<国民>投票とカタルーニャの<国民投票的>住民意向調査は、EUのなかに国家としての独立を真に目指す地域が存在することを、あらためて世界中に知らせることになった。そして予想通り、そうした動きに対して、現国家の一体性をどこまでも維持しようとする反発が生じていった。

ここで注意したいのが、次の事実である。独立賛成派も反対派も、同じ一つの思想に組みするものであった。いずれの陣営も、国民国家として存在することに至上の価値を見いだしていたのである。

80年代のドロール時代であったろうか。かつて<地域のヨーロッパ>が喧伝され、<補完性原則>が——現在のEU・加盟国間権限関係にとどまらないその真の意味において——称揚された。

地方政府・自治体といったサブナショナルの政治主体が国境を越えて連携する、ボトムアップのヨーロッパ建設が理念として構想された。国家はもはや絶対的な存在ではなく、上はEUに、下は地方政府・自治体に、ますますその力を譲り渡していった(とみられた)。

国際システムとは本質的にその成り立ちを異にするEU政体が生成しているのだと認識され、その途上のプロセスに学術研究の関心が注がれていった。

やがてこの新しいシステムにひとつの名前が付与される。それがマルチレベル・ガバナンスであった。地方政府・自治体の代表が集うEUの地域評議会(the Committee of the Regions)は、このシステムの象徴となる機関のはずであった。

ところが、である。冒頭に記した動きは、こうした<地域のヨーロッパ>、マルチレベル・ガバナンスの夢に、冷や水を浴びせかけるものとなった。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol43.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. EUSI・EESC(欧州経済社会評議会)共催国際シンポジウム

「Symposium on EU-Japan Trade Relations and the FTA/EPA」

(日・EU 通商関係と自由貿易・経済連携協定)

日時: 2014年11月26日(水) 9:00-12:40

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 東館 6F G-SEC Lab ホール大会議室

共催: EUSI、EESC (欧州経済社会評議会)

言語: 英語 (通訳なし)

参加: 自由・無料 (事前予約不要)

8:45 開場

第1部 (9:00-10:40)

佐伯英隆 (京都大学公共政策大学院教授)

「EU-Japan FTA/EPA in the Trend of Mega FTA」

(メガ FTA の潮流における日・EU FTA/EPA)

竹詰仁 (日本労働組合総連合会(連合) 総合政策局経済政策局長)

「Policies of the Japanese Trade Union Confederation (RENGO) for

EU-Japan FTA/EPA」

(日・EU 通商関係と自由貿易・経済連携協定と連合の立場)

明田ゆかり (慶應義塾大学講師・EUSI 主任研究員)

「EU-Japan Trade Relations and Civil Society」

(日・EU 通商関係とシヴィル・ソサエティ)

第2部 (11:00-12:40)

イヴ・パーレンドソン (欧州経済社会評議会・雇用者グループ)

「The EU-Japan FTA/EPA: Economic Benefits & New Business Opportunities」

(日・EU FTA/EPA: 経済的利益と新たなビジネスの機会)

ローラー・バトウー (欧州経済社会評議会・労働組合グループ)

「Could a Multi-Stakeholder Process of Governance in FTAs Lead to a

Better Global Sustainable Development?」

(FTA のガバナンスの多角的ステークホルダープロセスはより良いグローバルな持続可能な発展につながるか?)

クリストフ・ペーター (欧州経済社会評議会・利益団体グループ)

「EU-Japan FTA/EPA: Benefits for Consumers」

(日・EU FTA/EPA: 消費者にとっての利益)

<http://eusi.jp/outreach/conference-symposium/20141126-economics/>

2. 一橋大学国際・公共政策大学院(IPP)10周年記念シンポジウム

日時: 2014年11月30日(日) 午後1時30分から

場所: 如水会館、オリオンルーム

主催: 一橋大学国際・公共政策大学院(IPP)、同大学院同窓会

共催: EUSI、森有礼高等教育国際流動化センター

参加: 参加希望者は、EUSI 事務局にお申し込みをお願いいたします

(E-mail: hit-u@eusi.jp TEL: 042-580-9117)

第1部「公共政策をふくむ社会科学系大学院におけるグローバル化に対する取り組みと今後の課題」

蓼沼宏一 (一橋大学次期学長)
「一橋大学におけるグローバル化に対する取り組みと今後の課題」
川崎恭治 (一橋大学国際・公共政策大学院院長)
「IPP におけるグローバル化に対する取り組みと今後の課題」
Thomas Christiansen (Jean Monnet Professor, Maastricht University)
「基調講演」

第2部「グローバルに活躍する IPP の OB・OG たち」

久野将毅 (外務省アジア大洋州局地域政策課: 公共法政出身)
堀井里子 (国際教養大学国際教養学部専任講師: GG 出身)
北村明仁 (金融庁総務企画局総務課: 公共経済出身)
Giang Thanh Long (IPPM, National Economic Univ., Vietnam: APPP 出身)
http://www.ipp.hit-u.ac.jp/event/events/20141130_symposium_01.pdf

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

EUSI e-journal 第1号
『Review of EU Asia Pacific Studies』(REAPS) No. 1 (March 2013)
'The EU at a Crossroads: The Eurozone Crisis under Globalisation'
http://eusi.jp/outreach/outreach-report/reaps_01/

細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授、EUSI 執行委員)
「これはグローバル化の反動なのか？」(遠藤乾・北大教授との対談)
『中央公論』2014年12月号
http://www.chuokoron.jp/2014/11/201412_1.html

【EU に関するニュース】

- 2014年11月1日 ユンカー委員会発足、ティーママンズら副委員長7名を含む欧州委員28名体制。任期5年
- 2014年11月1日 英自動車誌 AUTOCAR、昨年度自動車生産台数はEUで1460万台、中国1800万台と世界一譲る
- 2014年11月2日 親露派、ウクライナ東部で「大統領・議会選挙」実施。モグリーニ上級代表、不承認声明
- 2014年11月2日 ルーマニア大統領選挙。中道左派ポント首相と中道右派ヨハニス・シビウ市長決選投票へ
- 2014年11月3日 ECB、資産購入計画でのカバード債購入、第2週は30.75億ユーロで対前週比180%と大幅増
- 2014年11月4日 欧州委員会秋季経済見通し、春季より下方修正。ECB 金融監督強化等で来年以降成長加速
- 2014年11月4日 ECB、SSM(単一監督メカニズム)正式始動。ユーロ圏主要銀行約130行の健全性を直接監督
- 2014年11月4日 クーレ ECB 専務理事、キプロスでの講演でユーロ圏各国の更なる早急な財政構造改革促す
- 2014年11月5日 モグリーニ上級代表、11月2日ウクライナ東部「大統領・議会選挙」不承認を重ねて声明
- 2014年11月5日 モグリーニ上級代表、イスラエルの東エルサレム新規入植を非難、和平プロセス重視声明
- 2014年11月5日 調査報道機関、ルクセンブルク政府が世界340社と税優遇協定と発表、ユンカー政権期含む
- 2014年11月5日 EU 報道官、ベラルーシでのフルノ死刑囚死刑執行に対して非難声明。同国では今年3例目
- 2014年11月5日 Eurostat、9月小売売上高はユーロ圏18カ国で前月比-1.3%、EU28カ国で同-1.2%
- 2014年11月5-7日 日・EU SPA 交渉第6回会合、東京で開催
- 2014年11月6日 ECB 定例政策理事会、主要政策金利据置き、必要時は追加措置準備、声明は全会一致と強調
- 2014年11月6日 ユーロ圏財務相会合、対ギリシャ支援で予防的信用枠の設定について協議

- 2014年11月6日 EU及び加盟国、エボラ出血熱対策で欧州委員会が示した10億ユーロを超す支援実施と発表
- 2014年11月6日 ヒル欧州委員(資本市場同盟担当)、来夏までに域内資本市場統合の計画策定を表明
- 2014年11月6日 OECD、世界経済見通しでユーロ圏の経済成長停滞を憂慮、ECBによる資産購入に理解表明
- 2014年11月7日 EU経済財務理事会、中央アフリカEU軍事ミッション(EUFOR RCA)を来年3月15日まで延長
- 2014年11月7-9日 ベルリンの壁崩壊25周年。メルケル独首相、記念式典開催。ユンカー委員長、声明発表
- 2014年11月9日 モグリーニ上級代表、ウクライナ分離派の軍備化の動きを憂慮、ミンスク合意遵守の声明
- 2014年11月9日 カタルーニャ自治州、独立問う独自住民投票(意見集計)。225万人投票、内81%が独立賛成
- 2014年11月9-10日 イラン核協議、オマーンで開催。EUからはアシュトン前上級代表参加。具体的進展なし
- 2014年11月10日 ECB、資産購入計画でのカバード債購入額、第3週は26.3億ユーロで前週を下回る
- 2014年11月10日 ロシア、ルーブルの変動相場制正式移行。EU・米国の経済制裁で9月以降急落、移行前倒し
- 2014年11月10-11日 APEC首脳会議、北京で開催。11月12日ユンカー委員長ら米中温暖化ガス削減歓迎声明
- 2014年11月11日 EU域内エボラ患者照会ネットワーク「臨床医のためのエボラ熱情報交換サイト」発足
- 2014年11月12日 欧州宇宙機関(ESA)彗星探査着陸機「フィアエ」、チュリュモフ・ゲラメンコ彗星に着陸
- 2014年11月12日 欧州委員会、ウクライナ援助で避難所・食料・医療・保護支援など3400万ユーロに拡大
- 2014年11月12日 Eurostat、9月鉱工業生産はユーロ圏18カ国・EU28カ国で共に前月比・前年同月比+0.6%
- 2014年11月12-16日 ステリリアニデス欧州委員(人道援助・危機管理担当)らエボラ出血熱対策で現地訪問
- 2014年11月13日 ECB専門家経済予測第4四半期発表、物価上昇率・GDP成長率予測共に前期より下方修正
- 2014年11月14日 Eurostat、7-9月GDP(速報値)はユーロ圏18カ国で前期比+0.2%、EU28カ国で同+0.3%
- 2014年11月15日 欧州宇宙機関(ESA)彗星探査着陸機「フィアエ」、彗星観測データ送信終了、電源切れに
- 2014年11月15-16日 G20首脳会議、ブリスベンで開催。ユンカー委員長及びファン＝ロンパイ常任議長参加

【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、新潟国際情報大学の臼井陽一郎教授に執筆していただきました。

わかりやすく書かれていますが、大変知的興味をそそられる論考です。EUについては長年「多様性のもとでの統合」ということが言われてきましたが、「統合」ということの本質を改めて考えなければならないのかもしれないかもしれません。翻って見れば日本でも、議員定数の格差是正の必要性があれだけ叫ばれながら、遅々として進まない背景には、府県単位で議員を選出すべきであるとする考え方が根強くあるからであり、越境的な協力とは別に県のアイデンティティーの問題が浮かび上がってきています。

秋は会議やシンポジウムの多い季節ですが、今月、トップ・エコノミスト・ラウンド・テーブルという国際会議が開かれました。アイルランドのシンクタンクが、同国の後援のもと、毎年アジアと欧州との間でほぼ交互に開催しているもので、今年で5回目になります。諸般の事情から広く公開はしてはみませんが、今年の東京の会議では200名を超える参加者があり、10名を超える各界のリーダーからの講演とパネルディスカッションが行われました。アイルランドの小規模のシンクタンクが、これだけの会議を毎年欧州とアジアで開催していることに驚きと感銘を受けました(と言っては失礼ですが)。EUSIもこの会議の主要な後援者の一つですが、よりいっそうのネットワーク作りの必要性を改めて感じています。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSIメールマガジン編集担当)

1989年11月10日ベルリンの壁崩壊当時、私は中学生でした。高校受験を控えた中学3年の私にとって、この年に起こった東欧革命や天安門事件やベルリンの壁崩壊などは、受験に出るに違いないと毎日ニュースを追っていた記憶があります。

ベルリンの壁崩壊から25周年——11月9日に開催された記念式典では、ゴルバチョフ旧ソ連書記長やワレサ・ポーランド元大統領らが参列するなど、当時の指導者らも迎える中での式典となりました。式典を主催したメルケル独首相は、よく知られているように旧西独出身ながら旧東独育ちであり、牧師であった父親の赴任のために生後すぐ西側から東側に移住しそこで育ったという経歴を持っています。そのような当時の「壁の向こう側」を身を以って体験した首相が主催したというのは一つの歴史の流れを物語っているように思われます。式典で流れたベートーベンの交響曲第九番「歓喜の歌」は、日本では「第九」の愛称で親しまれており、この季節によく歌われているだけでなく、EUにより「欧州の歌」として欧州統合のシンボルの1つと位置付けられています。すでに冷戦終結は「同時代史」ではなく「歴史」であり、学問の世界でも次第に歴史研究の対象として扱われるようになっていきます。現在の大学生は1993年-1997年生まれの冷戦後世代ですので、彼らの少し前の世代が同時代史として記憶していた9・11テロやイラク戦争からも10年以上経過し、徐々に「歴史」として扱われてゆくことになるでしょう。現在欧州が直面している2009年以降のEU債務危機なども、いつか歴史として扱われる時が来る頃には、どのように位置付けられるようになるのでしょうか。そしてそれは、現在の時代を生きる我々が、後世に対してどのような時代であったか、どう生き抜いて来たのかを伝える上で、時代を視る目を養う指標や経験として蓄積されてゆくようになるのではないかと思います。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン 編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
